

旧国鉄
杉津駅

北陸本線屈指の景勝地で
最大級の山越えの難所

国鉄時代の
北陸本線の難所を偲ぶ

杉津駅は、昭和37年まで福井県敦賀市杉津地区に存在した北陸本線旧線の駅です。かつて北陸本線旧線の敦賀〜今庄間は、海拔200メートルを超える山の中を通るルートをとっていました。起伏に富んだ緑の山中から海や棚田を見下ろす眺めの素晴らしさは「北陸本線屈指の車中風景」として知られ、明治42年に東宮（後の大正天皇）が御用列車で当駅を通過の際には、その絶景に見惚れて汽車の発車を遅らせたという逸話が語り継がれています。

その一方で、敦賀〜今庄間は1000メートル進むごとに25メートル高さを増す急勾配があり、北陸本線最大の山越えの難所でもありました。急勾配の線路上で列車が停止すると動き出せないため、高低差を緩和する（※スイッチバックが設けられ、険しい峠を越えて運行していました）。

北陸トンネルの開通で、
役目を終える

昭和20〜30年代の日本は戦後の経済復興が急ピッチで進められており、鉄道の輸送力増強は大きな課題でした。北陸本線最大のネックであった今庄〜敦賀〜木之本間は、緊急対策として、機関車三重連による貨物列車の1000トン牽引を実施するため最新式電気式ディーゼル機関車（DD50型）が配属されました。

現在は北陸自動車道の
パーキングエリアに

ともに新旧本線が切り替えとなり、昭和37年6月9日に旧線は廃止に。杉津駅はその役割を終えました。

昭和35年から2年間で、杉津駅で駅員として勤務していた敦賀市在住の木村さんによると、「敦賀〜今庄間は約26キロあり、その区間に11ものトンネルがありました。蒸気機関車は先頭車両で石炭を燃やしており、上り勾配ではトンネル内に煙が充満するため、トン

※険しい斜面を列車が発坂・降坂するために敷設された折り返し式の鉄道線路

その後、さらなる輸送力増強を図るため、昭和32年より北陸トンネルの建設工事がスタート。昭和37年の完成と

かつて杉津駅のあった場所は、現在は北陸自動車道上り線の杉津パーキングエリアとなっており、鉄道面の面影はありませんが、下り線の杉津パーキングエリアに設けられた「ゆうひのアトリエ」は敦賀湾を望むビュースポットであり、北陸随一と謳われた絶景を今も偲ぶことができます。

2023年の北陸新幹線敦賀開業に向け、新北陸トンネルの工事が進む今、敦賀の鉄道にも思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

参考文献

- 写真集 国鉄・敦賀〜JR旅たちまでの105年（発行／敦賀駅旅行会）
- 敦賀長浜鉄道物語（発行／敦賀市立博物館）



旧線で列車を牽引した蒸気機関車D51。電気式ディーゼル機関車DD50と三重連を組んで1000トン輸送を実現（今立 汎氏 撮影）



昭和37年6月、営業廃止寸前の杉津駅全景（今立 汎氏 撮影）



昭和37年6月9日に営業を終え、取り外される杉津駅の名札（今立 汎氏 撮影）



杉津パーキングエリア内には、往年の杉津の風景と蒸気機関車を描いた地元の児童の絵が飾られています